

2023年度 日本工学院専門学校											
声優・演劇科											
基礎演技Ⅳ											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	70	単位	2
担当教員	オーハシ、安奈ゆかり、いわいのふ			実務経験	有	職種	俳優				
担当教員紹介											
国際交流基金フェローシップでベルギーに、文化庁でイギリスに留学。1985年にモリムラルミコとTAICHI-KIKAKU設立し「身体詩」という新しい「劇」分野を切り開き世界24カ国100回の海外公演に主演。カイロ国際実験演劇祭BEST ACTOR AWARD受賞。著書「立ち位置の法則」（かんき出版）など。											
授業概要											
数名の俳優がローテーション形式で授業を担当する。それぞれが役者として重要視するスキルの向上と考え方（取り組み方）を養う。 ①「表現力を高める」ために、読解力（認知）、想像力（判断）、コミュニケーション能力（操作）を鍛える。 ②「表現する」とはどういうことなのか、頭と身体を使って個々の表現を身につけていく。 ③「演技者」としての心構え、マナー、基礎知識を学び、体と心を使って様々な事を体験し身につける。											
到達目標											
相手の言葉や行動をきちんと把握して（認知）どう対処するべきか思い描き（判断）、相手と積極的に関わる（操作）。緊張と自己意識からの解放。自分と向き合い、受け入れてから作品や役に対して自らイメージを思い描き、動けるようになる。自分・人・芝居を入学時より、好きになる。具体的に考え、悩み、行動し、演劇人としての自覚と覚悟を持つ。											
授業方法											
役者として必要とされるメンタル・体力・身体・声・を得るための基礎トレーニングを学ぶ。コミュニケーションゲーム・シアターゲーム・インプロ・台詞を通じて、演技に必要な要素を身につける。また、感じたことを声に出す、文字や絵にする、身体で表現する、という「アウトプット」を積極的に求めます。											
成績評価方法											
授業に対する積極性や授業態度、課題・実技への取り組み、内容について評価する。											
履修上の注意											
学生間、講師と学生とのコミュニケーション、様々な考え方・表現を学びつつ、礼儀・挨拶・相手に対して敬意を払うことを重視する。授業時間数の4分の3以上出席しない者は、定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
台本（テキスト）・資料など、必要に応じて授業内に配布。											
回数	授業計画										
第1回	テキストを使って、脚本の読解力を鍛える。① 使用候補テキスト：「誤解」「崑崙山の人々」「蜘蛛の糸」										
第2回	シアターゲーム：作品、役というものに向き合った後にわかるものを身体に覚えこませる。										
第3回	喜怒哀楽を言葉にのせ、相手へ伝える。										
第4回	テキストを使って、脚本の読解力を鍛える。② 使用候補テキスト：「やまなし」「名画より～晩鐘」「部屋」										
第5回	インプロ：イメージできたものを表現するにはそんなことが必要か学ぶ										

2023年度 日本工学院専門学校	
声優・演劇科	
基礎演技Ⅳ	
第6回	台本に沿って、道場人物の心の動きを読み解く
第7回	テキストを使って、脚本の読解力を鍛える。③ 使用候補テキスト：「おかしな二人」「噂〜ファルス〜」「エレジー」
第8回	台本読解：表現者としての台本の読み方、立ち上げ方について学ぶ。
第9回	詩を使って一つの作品を作る。各々が考える、一つの作品を作る事によりその作品が特技の一つになる。
第10回	テキストを使って、脚本の読解力を鍛える。④ 使用候補テキスト：「錦繡」「高瀬舟」「桜の園」
第11回	身体表現・空間表現：自分とまわりが分離しないよう感覚と意識を強化させる。
第12回	作った作品を発表する。
第13回	テキストを使って、脚本の読解力を鍛える。⑤ 使用候補テキスト：「明暗嫁問答」「サロメ」「動物園物語」
第14回	まとめ：自立して表現が出来るよう、頭と身体の一体化を目指す。
第15回	一年間を振り返って自分の成長と変化を共有する。